



NEWS LETTER

講演会開催報告

国が推進する脱炭素社会への取り組みを理解するために、福井経済同友会「脱炭素社会（カーボンニュートラル）を考える」委員会との共催で、下記のようにWeb講演会を開催した。

日時：2021年8月4日（水） 16：00～18：00
会場：ザ・グランユアーズフクイ 3F 天山の間
講演：「**2050年カーボンニュートラルに向けた取組について**」
経済産業省 産業技術環境局 総務課長 田尻貴裕 氏

司会の村田良昭 北陸電力(株)福井支店長から、脱炭素社会に向けた国と北陸電力の取り組みの概要と本講演会開催の目的が説明された。

その後、共催者の福井経済同友会 代表幹事の(株)福井銀行 取締役兼代表執行役頭取 林正博氏と、ふくい水素エネルギー協議会 代表理事の(株)ナカテック 代表取締役 中山浩行氏の挨拶があった。



経済産業省 田尻貴裕 氏



福井経済同友会 林正博 代表幹事



ふくい水素エネルギー協議会 中山浩行 代表理事



司会の村田良昭 北陸電力(株)福井支店長

講師（田尻貴裕 氏）略歴

- <学歴> 1994年 東京大学法学部卒（法学士）
- 2001年 ハーバード大学ジョンFケネディ行政大学院卒（公共政策学修士）
- <職歴> 1994年 通商産業省（現 経済産業省）入省
- 2010年 在アメリカ合衆国日本国大使館 経済班 参事官
- 2013年 経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 地球環境対策室長
- 2016年 東京都 政策企画局 計画担当部長（2017年より、同局戦略事業担当部長）
- 2019年 経済産業省 産業保安グループ 保安課長
- 2020年 経済産業省 産業技術環境局 総務課長（現職）



経済産業省 産業技術環境局 田尻貴裕 総務課長によるWeb講演



Web講演会会場の様子

田尻課長の講演の内容

(1) 2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略

第203回国会（令和2年10月）と第204回国会（令和3年1月）において、菅首相は2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を表明するとともに、2兆円の基金創設、最大10%の税制控除、水素や洋上風力などの再生可能エネルギーの拡充、原子力発電を利用した安定的なエネルギー供給の確立、2035年までに新車販売電動車100%の実現、成長に繋がるカーボンプライシングの導入など、具体的な取り組みを表明した。これまで、環境対策は経済的な損失を招くとされてきたが、経済的な制約ではなく、社会の大きな変革と投資を促し、生産性の向上と産業構造の大転換・成長を生み出すと捉えて、まずは、政府が環境投資で大きな一歩を踏み出すことが示された。

また、2030年におけるエネルギー需給の見通し（目標）が数値的に示され、それらを実現するためにはエネルギーの安定供給、環境適合性、経済効率性への配慮が必要であるとされた。

(2) グリーンイノベーション基金事業

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、NEDOに2兆円の基金を設けて、10年間、研究開発・実証から社会実装までを継続して支援する。①洋上風力発電の低コスト化、②大規模水素サプライチェーンの構築、③再エネ等由来の電力を活用した水電解による水素製造、④燃料アンモニアサプライチェーンの構築など、18のプロジェクトが2021年度上半期に開始予定とのことであった。

(3) カーボンプライシング

多くの国家やグローバル企業などがカーボンニュートラルを表明しており、企業や国において、脱炭素社会に向けた競争社会になっている。環境・社会・企業統治に配慮している企業を選んで投資する、いわゆるESG投資が世界的に伸びており、日本でも環境ファイナンスが拡大している。排出されるCO₂に価格を付けて、排出した企業などに量に見合った金銭的負担を求める仕組みがカーボンプライシングであり、これを国で検討しているとのことであった。

(4) クライメート・ファイナンス

地球温暖化への対策、つまり脱炭素社会の実現に向けて、長期的な戦略に従って温室効果ガスの削減に取り組んでいる企業に金融支援を行う仕組みを金融庁・経済産業省・環境省で検討している。一方、EUでは、企業の経済活動が地球環境にとって持続可能であるかどうかを判定し、グリーンな投資を促す施策（いわゆるEUタクソミー）を推進しているので、我が国でもこれに関する基本指針を策定した。

(5) 国際情勢と国際連携

124カ国・1地域が2050年までのカーボンニュートラルを表明し、中国とブラジルは2060年カーボンニュートラルを表明している。各国で種々の取り組みが行われ、国際的な議論が活発化する傾向がある。9月国連総会、10月ローマでのG20首脳会合、10月～11月の英グラスゴーでのCOP26において地球温暖化対策が中心的議題になることが示された。

講演の後、出席者からいくつかの質問があり、田尻課長による詳細な回答、説明があった。

その後、脱炭素社会（カーボンニュートラル）を考える委員会 委員長の(株)アイビックス 吉田保裕 代表取締役社長から、田尻課長への謝辞が述べられた。また、今後の委員会活動についての説明もあった。



講師の田尻課長に質問する福井環境事業(株) 安達弘幸 取締役



脱炭素社会（カーボンニュートラル）を考える委員会 吉田保裕 委員長

活動予定

9月2日、(株)ナカテック 本社にて、会員限定で、関西電力(株) 水素事業戦略室 戦略グループの水田真寿夫部長による「関西電力の水素社会実現に向けた取組み」の講演会を予定しています。

編集後記

地球の平均気温が20年以内に産業革命以前と比べて1.5℃高くなるとの研究結果が発表された。数年前には、30年後との予想が示されており、10年早まった。温暖化が急激に進行しているのである。経済産業省の田尻課長が講演で話されたように、国は多くの事業を通して脱炭素社会の構築を目指しているが、国民の動きが遅いと感じる。新型コロナへの対応と似ていると感じるのは、私だけであろうか？（羽木）

発行先

一般社団法人 ふくい水素エネルギー協議会
〒919-0411 福井県坂井市春江町藤鷲塚37-9
(株)ナカテック内

TEL : 0776-58-3930 FAX : 0776-51-5144